九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [21_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1468168

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 21 (1), 1988-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

# お　　知　　ら　　せ

## PFDのレベルアップおよびPFDEの公開について

10月26日(月)より，標記システムをレベルアップ(V10/L30)します．これに伴い，以下のような機能が追加されます．詳細については，マニュアル[1]を参照して下さい．

a. UNDOコマンドにより，更新した内容を更新前に戻すことができる．この場合，RECOVERYコマンドを先に入力しておく必要がある．

b. データセットの編集を終了せずに，EDITコマンドにより他のデータセットの編集ができる．

c. LCHANGE，LFINDコマンド等の論理式で変更･検索が行える．

d. 画面分割時，両画面がEDITデータ表示画面である場合に，一方の画面から他方の画面への行の複写が行える(CE，AE，BE行コマンド)．

e. 複写元一箇所に対し複写先を複数指定できる(CP行コマンド)．

f. 行の併合が行える(CS，CT，MS，MT行コマンド)．

g. FINDコマンドで，行にまたがる文字列検索ができる(OLオペランド)．

また，PFDEは利用者が所有しているデータセットをメニュー形式で統合管理するシステムです．詳細については，マニュアル[1]を参照して下さい．次に，PFDE起動のためのPFDEコマンドについて説明します．

1)入力形式

| コマンド | オペランド |
|---|---|
| PFDE | [データセット名]<br>[TTYTYPE(1\|2)] |

2)オペランドの説明

データセット名 ： 表示対象とするデータセット名を指定する．データセット名として，ABCを指定すれば，ABC.FORT77やABC.DATAなどの一覧が表示される．このオペランドを省略すると，全データセット名の一覧が表示される．

TTYTYPE ： TTY型端末から利用する時指定する．1はF9410/9430系端末か，または，それと同等のエミュレータをもつ端末の時指定する．2はFM7/8/11系端末の時指定する．

参考文献

1. 計算機マニュアル, FACOM OS/IV MSP PFD使用手引書 プログラム開発機能編 V10用 (78SP-3101-4), 富士通(株).

(ライブラリ室 電(内)2508)

(センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行)

## 英論文清書システムATFのSCANNERコマンドの公開ならびに実演のお知らせ

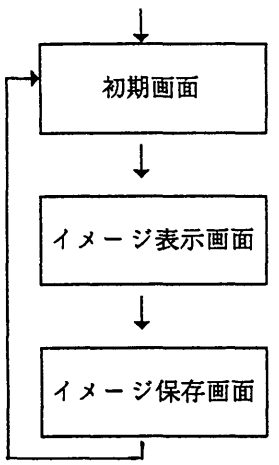
イメージスキャナを使用してATFの清書文書中にイメージデータを取り込むことができるようになりましたのでお知らせします. 使用法は次のとおりです.

1) ATFを起動する.
2) SCANNERコマンドでイメージデータを図版データセットに読み込む.
3) ATFテキスト中に@IP命令で図版データセット名を指定する.
4) NLPコマンドで日本語ラインプリンタに, あるいはIDPコマンドでディスプレイに清書出力する.

詳細については, マニュアル[1;2]およびイメージスキャナに付設の資料を参照して下さい.

使用例

```
READY
ATTR DCB LR(612) BL(612) RECFM(F B) DS(PS)
READY
ALLOC DA(IMAGE.DATA) SP(2 5) T US(DCB) NE CA
                                    データセットをあらかじめ割り当てておく.
READY
ATF
******      ATF  ( V10/L40 )    10/19/87   12:30:50   ******
READY
SCANNER
```




原稿の切り出しあるいは処理終了の指示

イメージスキャナからの原稿の入力要求
(原稿をセットしてSTARTボタンを押す.)
イメージスキャナから原稿を読み取り画面に表示
(ガイダンスに従ってカーソル移動キーで切り出し操作を行う.)
確認キー(P12), 終了キー(P9)

切り出したイメージデータを図版データセットに保存するか否かを入力. 保存する場合は図版データセット名を入力

なお, 下記のとおりイメージスキャナ利用の実演を行いますのでご参加下さい.

記

10月29日(木)　　10時 ～ 11時, 14時 ～ 15時

**参考文献**

1. 計算機マニュアル　FACOM ATF解説書(99SG-7260-3), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル　FACOM OS IV/F4 ATF使用手引書(78SP-7270-3), 富士通(株).

(ライブラリ室 (内) 2508)

(センターニュースNo. 361, 昭和62年10月19日発行)

## コマンドプロシジャ型のLISTコマンドによるラインプリンタ出力について

先にセンターニュースNo.359でお知らせしましたように, 本センターのNLP出力ではUCSおよびFCBの選択が自由に行えます. そこで, それらの指定を可能にしたコマンドプロシジャ型のLISTコマンドを用意しましたのでお知らせします. このLISTコマンドは, 標準のプロセッサ型のLISTコマンドと同名のため, コマンドの先頭に"%"を付加してください. これによりコマンドプロシジャ型のLISTコマンドが起動されます.

1)入力形式

| コマンド | オペランド |
|---|---|
| %LIST | データセット名<br>[UCS(KA10 \| KA12 \| KA15 \| LC10 \| LC12 \| LC15 \| AS10 \| AS12 \| AS15 \| EL12 \| EL15)]<br>[FCB(B406 \| B408 \| B412 \| A406 \| A408 \| A412)]<br>[SY(A \| S \| K \| O \| U \| H)]<br>[PARM('標準LISTコマンドのオペランド')] |

2)オペランドの説明

UCS　：文字セットと文字の大きさ(CPI)を指定する. センターニュースNo.359を参照してください.

FCB　：印刷可能行数(LPI)を指定する. センターニュースNo.359を参照してください.

SY　：出力クラスを指定する.

PARM ： NONUM,NOTITLE等の標準LISTコマンドのオペランドを指定する.

3)使用例

```
%LIST  TEST.C  UCS(AS10) PARM('NONUM,NOTITLE')
```

参考文献

1. A4版高速NLPのサービス開始について，九大大型計算機センターニュース，No.359.

(ライブラリ室　電(内)2508)

(センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行)

## SSLII及びSSLII/VPの障害について

SSLII及びSSLII/VPに，下記に示す障害があったことが判明しました.
結果に疑問のある場合は，ライブラリ室(内線2508)にお申し出ください.

1. 障害現象

SSLII及びSSLII/VPの固有値解法のうち，以下のルーチンで固有値･固有ベクトルが正しく求められない場合がある.

| | |
|---|---|
| BSCT1,DBSCT1 | 実対称3重対角行列の固有値(バイセクション法) |
| TEIG2,DTEIG2 | 実対称3重対角行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法，逆反復法) |
| SEIG2,DSEIG2 | 実対称行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法，逆反復法) |
| GSEG2,DGSEG2 | 実対称行列の一般固有値及び固有ベクトル(バイセクション法，逆反復法) |
| HEIG2,DHEIG2 | エルミート行列の固有値及び固有ベクトル(バイセクション法，逆反復法) |

(詳細)

指定されたm個の固有値が全て求まらず，固有値が未定義(値がセットされない)になる．又は，多重固有値の個数が正しくない.

2. 発生条件

障害は，下記条件を満たす場合に，入力データ(行列の値)に依存してまれに発生する.

① 行列が直和分解できる時，かつ，
② 求める固有値がゲルシュゴリンの定理に基づく根の存在範囲の上限/下限に等しいか近接している時，又は，求めるm番目の固有値が重根の時.

なお，この障害は10月8日に修正されています.

(ライブラリ室　電(内)2508)

(センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行)

## UTS用漢字端末の設置について

UTS用漢字端末として，CIT482G(伊藤忠エレクトロニクス(株)製)3台を本センター2階デバック室に設置しました．端末タイプはvt100を使用してください．画面エディタはvi, jvi 等が使用できます．この端末は漢字の入出力を行うことができ，シフトJIS漢字コードをサポートしています．shift + PF1キーを押下することにより漢字入力モードになります．漢字入力モードでは連文節変換による漢字入力が可能です．使用法の詳細については，端末横の使用手引書をご覧ください．

（第一業務掛　電(内) 2517）

（センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行）

## FMR-60によるMS-DOSとホスト（OS IV/F4 MSP）間のファイル転送について

MS-DOSファイルとホストデータセット間でのファイル転送が，FMR-60端末で利用できるようになりました．ここでは，その利用法について説明します．

### 1.センター2階に設置しているFMR-60端末よりTSSセションの開設を行う．

```
LOGON TSS ﾕｰｻﾞid/ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
        :
        :
READY
```

### 2.MS-DOSファイルをデータセットに転送

2.1 ファイル転送(送信)用のTSSｺﾏﾝﾄﾞを入力する．

```
   FEXPORT ﾃﾞｰﾀｾｯﾄ名                          新規ﾃﾞｰﾀｾｯﾄの場合
または，
   FEXPORT ﾃﾞｰﾀｾｯﾄ名 REPLACE                 既存ﾃﾞｰﾀｾｯﾄの場合
```

2.2 送信するファイル形式を問い合わせてくる．

```
                    <<  ファイルの送信  >>
ホストにファイルを送信します．
  パラメータリストを指定する場合は，ファイル名と識別名を入力して下さい．
  パラメータリスト．ファイル名＝>
  パラメータリスト識別名       ＝>

送信するファイル形式を番号で指定して下さい．＝>1
   (パラメータリストを指定した場合は不必要です)
    1.テキストファイル
    2.バイナリファイル

実行：指定完了    ＢＲＥＡＫ：転送キャンセル
```

2.3 送信するファイル名を問い合わせてくる.

```
                    <<テキストファイルの送信>>
送信するファイル名を指定して下さい　=>A:SEND
ｺｰﾄﾞ変換の方法を番号で指定して下さい　=>
     (指定しない場合は '3' になります)
    1.カナ用で変換          2.英小文字で変換
    3.エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換
レコード形式を番号で指定して下さい　=>
    1. 固定長          2. 可変長    (指定しない場合は'2' になります)
レコード長を1から4096の範囲で指定して下さい　=>
 (指定しない場合は, 固定長の時'80', 可変長の時'132' になります)
タブストップの変換方法を次の範囲で指定して下さい　=>
0.変換しない 1-20.変換する値 (指定しない場合は'8' になります)
圧縮指定を番号で指定して下さい　=>
     1.圧縮する  2.圧縮しない (指定しない場合は'1' になります)

実行：指定完了       ＢＲＥＡＫ：転送キャンセル       ＰＦ３：前画面表示
```

3. データセットをMS-DOSファイルに転送

3.1 ファイル転送 (受信) 用のTSSｺﾏﾝﾄﾞを入力する.

FIMPORT ﾃﾞｰﾀｾｯﾄ名

3.2 受信するファイル形式を問い合わせてくる.

```
                    <<  ファイルの受信  >>
 ホストよりファイルを受信します.
       ファイル名     :
       データ長       :
       レコード形式   :
       レコード長     :
   パラメータリストを指定する場合は, ファイル名と識別名を入力して下さい.
   パラメータリスト. ファイル名=>
   パラメータリスト識別名        =>

 受信するファイル形式を番号で指定して下さい. =>1
    (パラメータリストを指定した場合は不必要です)
 1.テキストファイル
 2.バイナリファイル

 実行：指定完了     ＢＲＥＡＫ：転送キャンセル
```

3.3 格納するファイル名を問い合わせてくる.

```
                    <<テキストファイルの受信>>
格納するファイル名を指定して下さい　=>A:RECEIVE
ファイルの格納方法を番号で指定して下さい　=>
 (指定しない場合は' 1' になります)
   1. 新規または入換え
   2. 追加
```

```
コード変換の方法を番号で指定して下さい　＝＞
　　(指定しない場合は '3' になります)
　　1.カナ用で変換
　　2.英小文字で変換
　　3.エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換

実行：指定完了　　ＢＲＥＡＫ：転送キャンセル　　ＰＦ３：前画面表示
```

(第一業務掛 電(内)2517)

(センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行)

### 昭和62年度(後期)ライブラリプログラム開発計画(追加)について

センターニュースNo.349以降, 承認された開発計画は下表のとおりです.

| 開発番号 | 課題名 | 開発者(所属) | 開発期間 | 開発時間 | 新規/継続 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16. 8 | ベキ級数の演算処理 | 田村英之, 末岡淳男, 深田　悟, 綾部　隆, 岡部　匡 (九大·工) | 1987.10.1 ～ 1988.3.31 | 120分 | 新規 |
| 16. 9 | 調和バランス法による定常振動の計算 | 田村英之, 末岡淳男, 深田　悟, 綾部　隆, 岡部　匡 (九大·工) | 1987.10.1 ～ 1988.3.31 | 180分 | 新規 |
| 16.10 | フーリエ級数の関数のフーリエ展開 | 末岡淳男, 田村英之, 深田　悟, 綾部　隆, 岡部　匡 (九大·工) | 1987.10.1 ～ 1988.3.31 | 120分 | 新規 |
| 16.11 | 最良多項式による陰関数の陽表示 | 末岡淳男, 田村英之, 深田　悟, 綾部　隆, 岡部　匡 (九大·工) | 1987.10.1 ～ 1988.3.31 | 120分 | 新規 |

(ライブラリ室 電(内)2508)

(センターニュースNo.361, 昭和62年10月19日発行)

### UTS利用者へホームディレクトリ変更のお知らせ

10月19日(月)より, 利用者のホームディレクトリを変更しました. 利用者のホームディレクトリは"/usr/usr1/登録番号"で統一していましたが, 利用者ファイルの増加により, ファイルシステムの分割が必要となりました. 新しいホームディレクトリは"/usr/usrn/登録番号"となります. "usrn"の"n"は0から9までの利用者番号の下1桁の数字です. なお, 下1桁が"1"の利用者のホー

ムディレクトリの変更はありません.

例)　A70111A ⇒ / usr / usr1 / a70111a
　　A70123A ⇒ / usr / usr3 / a70123a
　　A71500B ⇒ / usr / usr0 / a71500b

PATHの変更, また, ホームディレクトリを意識したプログラムは変更をお願いします.

(第一業務掛 電(内) 2516)

(センターニュースNo.362, 昭和62年10月29日発行)

### 専用回線による端局の設置について

専用回線による端局の新規設置は,センター側の通信回線設備に余裕が無くなりましたので, 11月1日から当分の間受付を停止します. 現在利用者側およびセンター側各々にモデムを設置して接続している形態から, PACXを経由して接続する形態への変更についても, 新規設置と同様に受付を停止します. なお, 交換回線による接続での端局設置は従来通り受付ます.

今後の新規設置については, 現在設備の増設を計画していますので, 設備が整い次第センターニュースでお知らせの上受付を再開します.

上記に関する事, その他端局設置についての問い合わせは共同利用掛までお願いします.

(共同利用掛 電 (内) 2505)

(センターニュースNo.362, 昭和62年10月29日発行)

### N1RJEコマンドの機能追加について

九州大学大型計算機センターからN－1ネットワークを介して他の大型計算機センターのリモートバッチ・サービスを受けるためのN1RJEコマンドに新機能が追加されましたのでお知らせします. 追加された機能としては, N1RJEのモード・メッセージ(プロンプト文字列)の追加, CHANGEサブコマンドの新設, INPUT, OUTPUT, CANCELサブコマンドへのオペランドの追加などです.

追加機能の詳細は「利用の手引（ネットワーク編）」をご覧下さい．

**参考文献**

1. 計算機マニュアル，FACOM OS IV／F4 MSP N1NET－G使用手引書（利用者編）V11L20系用78SP－2810－1

（ネットワーク室　電（内）2518）

（センターニュースNo.363, 昭和62年11月13日発行）

## 英日自動翻訳システムATLAS－Iのレベルアップについて

11月16日（月）より，標記システムをレベルアップ（VO1／L23）します．これに伴い，以下のような機能が強化されます．利用法の詳細については，参考文献［1，2］を参照してください．

a．翻訳機能が改善される．

b．基本辞書の辞書内容が整備される．

c．科学技術用語辞書をレベルアップ（VO1／L20）します．

**参考文献**

1. 計算機マニュアル　FACOM OSIV ATLAS－I解説書（70AR－3000－3），富士通㈱．
2. 森田ほか，自動翻訳システムATLASの使用について，九州大学大型計算機センター広報，**20**，3，1987，143－182．

（ライブラリ室　電（内）2508）

（センターニュースNo.363, 昭和62年11月13日発行）

## 日英自動翻訳システムATLAS－IIのレベルアップについて

11月16日（月）より，標記システムがレベルアップ（V10／L21）します．これに伴い，以下のような機能が追加・強化されます．利用法の詳細については，参考文献［1，2，3，4］を参照してください．

a．多義語及び多訳語の選択機能が追加される．

b．未登録単語抽出機能および未登録連語抽出機能が追加される．

**参考文献**

1. 計算機マニュアル　FACOM OSⅣ／F4 MSP ATLAS－Ⅱ使用手引書（78SP－5761－2），富士通㈱．
2. 計算機マニュアル　FACOM OSⅣ ODM解説書（70SG－6000－4），富士通㈱．
3. 計算機マニュアル　FACOM OSⅣ ODM使用手引書（70SP－6010－4），富士通㈱．
4. 森田ほか，自動翻訳システムATLASの使用について，九州大学大型計算機センター広報，**20**，3，1987，143－182．

（ライブラリ室　電（内）2508）

（センターニュースNo.363, 昭和62年11月13日発行）

## 文書処理システムODMの機能強化について

11月16日（月）より，標記システムが機能強化します．これに伴い，以下のような機能が追加・強化されます．詳細については，参考文献［1，2，3，4，5］を参照してください．

a．1ページ当りのイメージデータの出力制限値を廃止する．

b．ATF（英論文編集清書システム）のSCANNERコマンドで読み込んだイメージデータのODM文書への取り込みが可能になる．

c．SINITコマンドによる数式・英文処理環境設定パネルの内容が追加される．

### 参考文献


1. 計算機マニュアル　FACOM　OSⅣ　ODM解説書（70SG－6000－4），富士通㈱．
2. 計算機マニュアル　FACOM　OSⅣ　ODM使用手引書（70SP－6010－4），富士通㈱．
3. 計算機マニュアル　FACOM　OSⅣ　FDMS／JEF使用手引書（70SP－7662－1），富士通㈱．
4. 計算機マニュアル　FACOM　ATF解説書（99SG－7260－3），富士通㈱．
5. 九州大学大型計算機センターニュース，№361，英論文編集清書システムATFのSCANNERコマンドの公開について．


（ライブラリ室　電（内）2508）

（センターニュースNo.363，昭和62年11月13日発行）

## 「オンライン・データベース利用ガイド（第7版）」の発行について

7大学の全国共同利用大型計算機センターおよび学術情報センターでは，それぞれデータベースのオンラインサービスを行っており，利用者は交換回線（電話）あるいはコンピュータ・ネットワークなどを介して手近な端末からどのセンターのデータベースでも利用できるようになっています．この利用ガイドは，各センターのデータベース・サービスの概略と簡単な利用法について解説したものです．このたび第7版が発行されました．ご希望の方は共同利用掛までお申し出ください．

（共同利用掛　電（内）2515）

（センターニュースNo.363，昭和62年11月13日発行）

## N－1ネットワーク運用時間の変更について

11月16日（月）より，N－1ネットワークの運用時間を下表のように変更しました．

| センター名 | 運用時間 |
|---|---|
| 北海道大学大型計算機センター<br>東北大学大型計算機センター | （月）　12:30～24:00<br>（火）～（金）　9:00～24:00<br>（土）　9:00～17:00 |

| センター名 | 運用時間 |
|---|---|
| 東京大学大型計算機センター<br>名古屋大学大型計算機センター<br>京都大学大型計算機センター<br>大阪大学大型計算機センター | (月)　12:30～22:00，22:10～24:00<br>(火)～(金)　9:00～22:00，22:10～24:00<br>(土)　9:00～17:00 |

なお，東京大学大型計算機センター等の4センターについては，学術情報ネットワークシステムの都合により，ネットワークの利用は22:00～22:10の間停止します．九州大学大型計算機センター以外のセンター運用時間については，各センターの広報やセンターニュースを参照してください。

（第一業務掛　電（内）2516）

（センターニュースNo.364, 昭和62年11月25日発行）